

◆ 研究と教育

▼ 新人教育・研修

新入職員は経験により異なりますが、約9ヶ月かけて薬剤部内の各部署の研修を行います。それぞれの部署で先輩職員からの指導を受け、業務内容を理解すると共に、薬剤師としての基本スキルを身につけます。

また新入職員はできたところ、できなかったところなどをチェックリストへ記載し、分析します。先輩職員は分析内容から成長の度合いを確認、足りない点を指摘し、明日の業務に繋げてもらっています。

6ヶ月後には、調剤室・注射室において実務実習生を教えることを目標としています。

▽ 2017年度 新人研修内容

月	内容
4月	オリエンテーション、内服・注射調剤研修、電話対応
5月	内服・注射調剤 一人立ち
6月	内服・注射鑑査研修
7月	内服・注射鑑査 一人立ち
8月	病棟業務研修
9月	病棟研修(合間に調剤監査)、学生研究
10月	病棟業務 一人立ち
11月	
12月	当直開始
1月	PET-CT 検査薬検定、学会発表
2月	
3月	

▼ 学生実習

2.5か月の実習を調剤、注射、病棟、臨床研究の4つのチームに分け、スケジュールを作成しています。基本的には、学生はいくつかのグループに分かれ、ローテーションにより各部署を回ります。

それぞれの担当薬剤師が学生へ指導を行っており、SBOsを達成するために全員で実習を行うこともあります。

実習の初日、2日目には多病院合同の集合研修に参加しています。現場では、調剤室だけでなく病棟にも赴き、患者様に直接関わりのもてるベッドサイドでの実習も行っております。

また、臨床研究には特に力を入れており、学生ごとに異なるテーマを持ち薬剤師とのディスカッションを交えて研究を進めていきます。最終日には、研究発表会を行っています。

▽ 学生実習受入実績

年度	H16	H17	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
城西大学			1										
昭和薬科大学			1			2	3	5	5	6	3	3	
帝京大学			1										
東北薬科大学			1										
日本大学							2	3	3	1			
星薬科大学	1	1	2	4	1	2	3	8	8	10	7	7	4
東京薬科大学										4	2	2	8
横浜薬科大学										2	1	1	1

▽ 2017年度 学生実習内容

週数	主なプログラム			金曜講義	学生金曜発表	他部署見学		
	A5チーム	A6チーム	B3・4チーム					
1	ガイダンス 病院薬剤師の業務説明、病棟決定 リスクマネジメント、プレアポイド・副作用報告 オーダーリング、Medistep説明 POS演習、処方解析							
2	病棟①	病棟①	病棟①	医薬品在庫管理	○	透析室、栄養科、 検査科、放射線科、 リハビリ科、母親学級、 ワゲン療育長竹、OPE室		
3	病棟②	病棟②	病棟②	無菌調整・栄養				
4	注射	病棟③	調剤	化学療法	○			
5	調剤	注射	病棟③	TDM・感染				
6	病棟③	調剤	注射	薬薬連携	○			
7	病棟④	病棟④	病棟④	治験		(実施日に合わせて 期間中に設定)		
DI実習 3日間								
8	病棟⑤	病棟⑤	病棟⑤	中毒	○	他病棟1日見学		
9	研究			漢方薬の基礎	○	A4病棟1日見学		
10							○	
11								○

▼ 業務実績

研修・研究の機会を通じて、自己研鑽に励んでいます。
研究活動や学術発表を行うためのサポート体制が整っています。

▽ 論文・雑誌掲載（2017年10月現在）

- 2011年度
“閉鎖式薬物混合システムの有用性に関する検討” 薬事新報No.2677(2011) 編集・発行 薬事新報社
- 2012年度
“学生主導による病院実務実習の導入と効果” 薬事新報No.2735(2012) 編集・発行 薬事新報社
“他職種協議による院内 Medikation エラーへの取り組み ～医療安全管理室における薬剤部の役割～”
神奈川県病院薬剤師会雑誌 No.130, 5-9, 2012 編集・発行 神奈川県病院薬剤師会
“他職種協議による院内 Medikation エラーへの取り組み”薬事新報No.2753(2012) 編集・発行 薬事新報社
- 2013年度
“医療安全の向上に資する病棟薬剤師業務の構築”
神奈川県病院薬剤師会雑誌 第45巻2号10-14 2013 編集・発行 神奈川県病院薬剤師会
“ウリナスタチン膈坐剤の調製と絨毛膜羊膜炎に伴う切迫早産に対する有用性”
医薬ジャーナルVol50. No.2 2014 2月号 編集・発行 医薬ジャーナル社
- 2014年度
“入院患者の在院日数に対する病棟薬剤業務実施加算算定の影響”
日本病院薬剤師会雑誌 第50巻6号 733-738 2014 編集・発行 日本病院薬剤師会
“中規模病院における薬剤師病棟常駐の有用性に関する研究(第1報)
～当院における薬剤師の病棟常駐に対する医師・看護師ニーズの探索”
日本医療経営学会誌 [Vol. 8](#) (2014) [No. 1](#) 37-43 編集・発行 日本医療経営学会
- 2015年度
“薬剤師の情報提供に対する妊婦の服薬への心理的影響度の検証”
Journal of Pharmaceutical Communication, Vol.13 No.1 32-37 2015.
- 2016年度
“薬剤師のためのPOS入門” 日本POS医療学会雑誌, Vol20, No.1, 127-130, 2016.
“地域と病院でシームレスな医療を実現するための病院薬剤師の役割”
神奈川県病院学会誌 第35号, 47-50, 2016.
- 2017年度
“POS勉強会のアンケート結果報告” 日本POS医療学会雑誌, Vol21, No.1, 133-136, 2017.
“ジェネリック医薬品の普及に及ぼす各種環境因子の影響に関する研究”
ジェネリック研究 Vol.11, No.1, 39-48, 2017.
“病院実習施設の情報収集におけるホームページの有用性に関する研究”
日本病院薬剤師会雑誌, Vol.53, No.11, 1382-1388, 2017

▽ 学会発表歴（2017年11月現在）

【 地域包括ケア病棟における薬剤師の役割 】

- ・ プロトコールに基づいた薬剤切り替えにおける病棟薬剤師の役割
（第12回かながわ薬剤師学術大会2013）
- ・ 患者の薬剤管理能力の検討 （第14回かながわ薬剤師学術大会2015）
- ・ 地域包括ケア病棟における薬剤師の役割 ～業務変化とその評価～
（日本病院薬剤師会関東ブロック第45回学術大会シンポジウム2015）
- ・ 地域と病院でシームレスな医療を実現するための病院薬剤師の役割
（病院学会神奈川部会シンポジウム2016）
- ・ 地域と病院とでシームレスな医療を実現するため入院・退院時に何をすべきか
（日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会シンポジウム2016）
- ・ 地域包括ケア病棟における薬剤師の役割 （第18回日本医療マネジメント学会学術総会2016）
- ・ 地域包括ケア病棟における薬剤師の役割 Vol.2 （日本医療薬学会第27回年会2017）

【 外来患者のポリファーマシー対策における 薬剤師の役割 】

- ・ 院外処方箋における疑義照会の実態調査 ～当院薬剤部ですべき事とは～
（第12回かながわ薬剤師学術大会2013）
- ・ 保険薬局からの疑義照会に対する薬剤部の介入効果
（日本病院薬剤師会関東ブロック第45回学術大会2015）
- ・ 保険薬局からの疑義照会に対する薬剤部の介入効果 vol.2
（日本病院薬剤師会関東ブロック第46回学術大会2016）

【 入院患者のポリファーマシー対策における 薬剤師の役割 】

- ・ 地域包括ケア病棟における多剤併用に対する薬剤師のかかわり
（第15回かながわ薬剤師学術大会2016）
- ・ 地域包括ケア病棟におけるポリファーマシーへの取り組みに関する必要性の検討
（第1回日本老年薬学会学術大会2017）
- ・ 食欲不振と服用薬剤の関連性について （第16回かながわ薬剤師学術大会2017）
- ・ 地域包括ケア病棟薬剤師のポリファーマシー介入による医薬品適正使用と医療経済効果の検討
（第16回かながわ薬剤師学術大会2017）

【医療安全】

- ・ 転倒・転落へのアセスメント 薬剤師の視点から （第11回かながわ薬剤師学術大会2012）
- ・ 医療安全の向上に資する病棟薬剤師業務の構築
（日本病院薬剤師会関東ブロック第43回学術大会2013）
- ・ 病棟内薬剤関連インシデントの把握・早期対策構築が医療安全にもたらす効果
（第13回かながわ薬剤師学術大会2014）
- ・ 病棟常駐業務における薬剤関連インシデント軽減効果の検討
（日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会2014）
- ・ リスクマップを用いた薬剤関連インシデントの原因分析 （第14回かながわ薬剤師学術大会2015）
- ・ リスクマップを用いた薬剤関連インシデントの原因分析 vol.2 （日本医療薬学会第26回年会2016）
- ・ 転倒・転落防止における薬剤師の関わり vol.1 （日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会2017）

【漢方薬の有用性に関する研究】

- ・ 漢方製剤の使用量増加に伴う副作用報告の変遷 ～PMDAの情報をもとにした実態調査～
（日本医療薬学会第25回年会2015）
- ・ 漢方製剤の副作用調査におけるPMDAデータベースの有用性の検証
（日本東洋医学会神奈川県部会2015）
- ・ 漢方製剤の副作用調査におけるPMDAデータベースの有用性の検証
～肝・胆道系障害のリスク因子の探索～
（第67回日本東洋医学会学術総会2016）
- ・ 漢方製剤の副作用調査におけるPMDAデータベースの有用性の検証Vol.3
～防風通聖散のリスク因子の探索～
（日本東洋医学会神奈川県部会2016）
- ・ 漢方製剤におけるPMDAデータベースの有用性の検証Vol.4
～OTC漢方薬による副作用発現状況の調査～
（第68回日本東洋医学会学術総会2017）

【DI担当薬剤師の役割】

- ・ 当院における医薬品情報共有システム確立のための取組み （第17回日本医薬品情報学会総会2014）
- ・ 後発医薬品採用に伴う医師への調査 （第18回日本医薬品情報学会総会2015）
- ・ 当院の副作用発生状況の把握と要因分析 （第19回日本医薬品情報学会総会2016）
- ・ 簡易副作用報告書を用いた効率的な副作用抽出 （第20回日本医薬品情報学会総会2017）

【患者QOL向上におけるPOSの有用性に関する研究】

- ・ 神奈川県病院薬剤師会 卒後研修会におけるアンケート報告（第38回日本POS医療学会大会2016）
- ・ 地域包括ケア病棟常駐薬剤師からみた診療情報連携（第39回日本POS医療学会大会シンポジウム2017）
- ・ POS薬剤研究会の研修会アンケート報告（第39回日本POS医療学会大会2017）
- ・ POS薬剤研究会の研修会アンケート報告（日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会2017）

【外来化学療法における薬剤師の役割】

- ・ 外来化学療法における薬剤師の関わり ～TS1を例とした現状調査と展望～
（日本医療薬学会第24回年会2014）
- ・ 癌化学療法における薬剤師と看護師の副作用モニタリングの差異
（第15回かながわ薬剤師学術大会2016）
- ・ 外来化学療法における 副作用評価方法の検討（第4回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015）

【薬剤部門におけるBSCの有用性】

- ・ BSCを用いた地域包括ケアにおける薬剤部の業務戦略
～病院のBSCに沿った業務戦略の立案例～
（日本医療バランス・スコアカード研究学会第15回学術総会2017）

【透析業務における薬剤師の役割】

- ・ 薬剤師の透析カンファレンス参加が残薬調整にもたらす効果（日本腎臓病薬物治療学会2017）

【処方箋検査値表示の有用性に関する研究】

- ・ 院外処方箋への検査値表示に対する検討vol.1 ～近隣薬局へのアンケート調査～
（日本病院薬剤師会関東ブロック第47回学術大会2017）

【院内感染対策における薬剤師の役割】

- ・ 当院における手術部位感染予防抗菌薬の使用状況（第65回日本化学療法学会総会2017）

【その他】

- ・ 当院における薬剤師の専門性 ～国家試験の分野別にプレアボイド報告件数を解析～
（第14回かながわ薬剤師学術大会2015）
- ・ SMBG機器における患者ニーズの探索（日本医療薬学会第27回年会2017）
- ・ 外科急性期病棟における在院日数の実態調査（第16回かながわ薬剤師学術大会2017）
- ・ 当院におけるC型肝炎治療薬の使用成績（第16回かながわ薬剤師学術大会2017）

▽ 書籍（共著/共同編集）

- ・ 疾患別薬剤管理指導ハンドブック(日本病院薬剤師会編):2004.1発行
第2章:感染症,結核症
第3章:薬剤管理指導実例集(結核) エルゼビアジャパン
- ・ 病気と薬の説明ガイド(共著):薬剤編「結核症」Vol.57、増刊号(2006) 南山堂(株)
- ・ ジェネリック医薬品導入ガイドブック 2006.9 じほう(株)
- ・ プレアボイド報告実例集2 2006.10 (社)神奈川県病院薬剤師会
- ・ 病気と薬パワーブック2012 (肺結核症) 南山堂(株)
- ・ 薬剤部門のマネジメント (日常業務とコスト管理) 日本医療企画(株)

▽ その他（執筆、コラム等）

- “薬剤師のための放射線・アイトープ Q&A（導入編）”神奈川県病院薬剤師会会誌2011 No.127(p66-67)
- “薬剤師のための放射線・アイトープ その2” 神奈川県病院薬剤師会会誌2011 No.128 (p69-72)
- “薬剤師のための放射線・アイトープ その3” 神奈川県病院薬剤師会会誌2011 No.129 (p51-54)
- “薬剤師のための放射線・アイトープ その4” 神奈川県病院薬剤師会会誌2011 No.130 (p16-18)
- “院外処方箋に関する病院薬剤師の関わり” 薬事新報, No2939, 3, 2016.
- “地域包括ケア病棟への薬剤師常駐” れんけい最前線2016年 春号 19-21.
- “地域と病院でシームレスな薬物治療を実現するために” こちらティジン やくまる情報局, Vol.1, 2017.
- “薬剤師が地域包括ケア病棟に常駐する効果①退院後、在宅での薬物治療の質向上へ”
医療経営CBnews management, 2017. (<https://www.cbnews.jp/news/entry/50572>)
- “薬剤師が地域包括ケア病棟に常駐する効果②職種間の情報連携が効率化のカギ”
医療経営CBnews management, 2017. (<https://www.cbnews.jp/news/entry/20170302112245>)
- “地域ニーズ汲み取り地域包括ケア病棟を導入
～システム確立に向け在宅医との信頼構築目指す～”
Chemiphar WISELY, Vol.31, 2-4, 2017.
- “退院後の生活”重視した医療で在宅における薬物治療の質向上をサポート”
Chemiphar WISELY, Vol.32, 2-4, 2017.